

第28回特別展

# 四條畷の古墳時代

—王権を支えた馬飼いの里—

四條畷市立歴史民俗資料館

## ごあいさつ

四條畷市の歴史は古く、全時代を通じて古墳時代の遺跡が最も多く、出土品も豊富です。前期には忍岡古墳が築かれました。この頃の古墳は誰もが造れるものではありませんでした。大きな力を持つ大王や豪族と呼ばれる人々が小山のような墓を築くことで、権力を誇示しました。

忍岡古墳のムラは何処にあるのか?長年の謎でしたが、近年、忍岡古墳の時代の集落が初めて発見されました。このムラの人々が古墳造りにたずさわった可能性が考えられます。

古墳時代中期には、朝鮮半島から来た渡来人が馬の文化を伝えました。馬匹文化にともなって便利な生活文化も根付いた先進的な地域となっていました。讃良郡(四條畷を中心とした地域)で育った馬は、最新の軍事・運輸・通信に重要な役目を果たし、王權を支えることとなりました。

また、清瀧古墳群から出土したと伝わる家形石棺の所在が判明するなど新しい情報もお知らせすることができます。今回の特別展では、魅力あふれる四條畷の古墳時代を楽しんでいただけたら幸いです。

最後になりましたが、本特別展において多くの方々にご協力いただきました。厚くお礼を申し上げます。

### 古墳の始まりはいつ?

古墳時代の始まりは、3世紀中ごろといわれていますが、卑弥呼は古墳時代の人だという意見も聞かれます。近年話題となった纏向石塚古墳のヒノキ板材は、年輪年代法によって西暦177年の実年代が得られています。古い板材をリサイクルした可能性もありますが、科学分析で実年代がわかるようになってきました。

四條畷市においての古墳の始まりは、現在のところ4世紀前半の忍岡古墳です。



### 四條畷市教育委員会

四條畷市立歴史民俗資料館 指定管理者 株式会社日立ビルシステム

大阪府四條畷市塙脇町3-7 電話072-878-4558

平成25(2013)年10月8日(火)~12月15日(日)

## 大阪府地図

北河内は、明治時代より、四條畷市・枚方市・交野市・寝屋川市・門真市・守口市・大東市の七市で構成され、現在に至っています。

北河内は、古代には河内湖（潟）の湖畔に位置していました。

讃良郡は、古代の郡制度によって制定されました。四條畷市全域・寝屋川市南東部・大東市北部の範囲をいいます。

日本書紀などには、讃良の氏・地名が記載されています。



古墳時代の中ごろに朝鮮半島から最新の技術が河内に伝わりました。難波の海につながる河内湖は国内外の交流が活発だったのでしょう。

- 四條畷市は馬の飼育
- 柏原市・交野市は鉄の加工
- 堺市・大阪市・吹田市は須恵器の焼成

当時の大阪市は湖の中で、今の大阪湾に続っていました。四條畷市葛屋北遺跡（●）は河内湖の水際近くだったと考えられています。

讃良（四條畷周辺）は、海や湖などを介して、国内外との交流が活発に行われたのでしょう。

④ この冊子で記述している古墳時代の馬は、すべて120~130cmの蒙古系の小型の馬です。



## 四條畷市遺跡分布地図と目次

N

河内街道  
東高野街道  
清滝街道  
古堤街道  
鶴船街道



- ① 王者の古墳 忍岡古墳 ..... 5
- ② 新発見 忍岡古墳を支えた集落か 謂良郡条里遺跡 ..... 7
- ③ 墓地となって残った前方後円墳 墓ノ堂古墳 ..... 9
- ④ 馬の頭を埋葬 更良岡山古墳群1号墳 ..... 9
- ⑤ 高台の古墳に馬の頭を埋葬 清滝古墳群2号墳 ..... 10
- ⑥ 古墳の石棺をリサイクル 国中神社・中野正法寺 ..... 11
- ⑦ 周溝に人を埋葬 大上古墳群1号墳 ..... 13
- ⑧ 二重の周溝をもつ古墳 珍しい古墳は誰の墓? 大上古墳群3号墳 ..... 14
- ⑨ 周溝に陶質土器 馬鹿い集団のきずな 大上古墳群4号墳 ..... 15
- ⑩ 金メッキのイヤリング 大上古墳群5号墳 ..... 15

- ⑪ 眼下を望んで祭祀 国道163号の調査 城遺跡・木間池北方遺跡 ······ 16  
 ⑫ 琴を弾くのは神のため 忍ヶ丘駅前1号墳 ······ 17  
 ⑬ 日本最古級の下駄 岡山南遺跡 ······ 17  
 ⑭ 忍ヶ丘駅前は埴輪がザクザク 忍ヶ丘駅前遺跡 ······ 18  
 ⑮ やさしい表情が魅力 南山下遺跡 ······ 19  
 ⑯ 朝鮮半島からの船軸土器 陶質土器と韓式系土器 ······ 20  
 ⑰ 溝や井戸で馬を犠牲にした祭祀 中野遺跡 ······ 21  
 ⑱ 祭祀は溝や川で 南野米崎遺跡 ······ 22  
 ⑲ 聖水を注いだ? 槌形はそう 北口遺跡 ······ 23  
 ⑳ 井戸の神様にお供え 奈良田遺跡 ······ 23  
 ㉑ 愛馬の埋葬 郡屋北遺跡 ······ 24 法元寺  
 ㉒ 雪谷池  
 清瀧第一トネル  
 鶴盛園  
 天満宮  
 岡原公園  
 岡原小学校  
 岡原中学校  
 正傳寺  
 田原ノオホレ  
 田原城跡  
 北谷池  
 北谷川  
 戎川  
 田原  
 国道163号  
 旧163号線  
 田原  
 池
- 

- ㉒ 馬のまつりは、いけにえが必要 奈良井遺跡 ······ 25  
 ㉓ もう一つのまつり堀 鎌田遺跡 ······ 27  
 ㉔ 米づくりも頑張る 鎌田遺跡 ······ 29  
 ㉕ 水害にも負けず米づくり 講良郡条里遺跡 ······ 29  
 ㉖ 田原の古墳時代 森山遺跡 ······ 30  
 ㉗まとめ ··· 30



## 忍岡古墳 (昭和47年大阪府指定史跡) 全長87m

前方後円墳：古墳時代前期：四條畷市岡山二丁目



忍岡古墳（前方後円墳）遠望 手前は新池

石室の横に明治時代に移転してきた忍陵神社が鎮座しています。

覆い屋の格子戸から竪穴式石室が見学できます。

立地と見晴らしのよさから大坂夏の陣で徳川軍が陣をはりました。

忍岡古墳は、主輪が南北にある当市で最も古い古墳で、古墳時代前期（約1700年前）の前方後円墳です。古墳は、生駒山系から最も西に突き出た丘陵の突端を利用して築造されています。墳頂部からは生駒山系の裾野および古代河内湖（今の大阪平野）が一望に見渡せる良い場所にあります。古墳の築造時期や立地条件からみて、河内湖を掌握した豪族の古墳ではないかと想定しています。

この古墳は、昭和9年の室戸台風の被害によって忍陵神社が倒壊し、昭和10年、神社再建中に発見され、京都大学が調査に入りました。その結果、古墳時代前期に築造された貴重な古墳であることが判明しました。忍岡古墳の竪穴式石室はすでに盗掘されていましたが、鐵形石や紡錘車、鉄劍、鐵鎌、小札片（ヨロイの一部）などが出土しました。

当時、鉄は日本産のものは知られておらず、朝鮮半島からの輸入に頼るしかありませんでした。鉄製品は貴重品で権力を象徴する物の一つで、古墳にも大量に副葬されました。この古墳の規模や残されていた副葬品の内容からみると河内湖を治めていた有力者の墓であると考えられます。出土品は京都大学が所蔵しています。

調査後、地元の方々の熱意によって覆い屋で保護されました。その覆い屋も老朽化と



死者を埋葬していた石室内部 長さ約 6.3 m・幅 1 m。

石室は保護されていたため保存状態は良好でした。死者を埋葬した割竹形木棺は残っていませんでしたが、中央が窪んでおりその痕跡が認められました。

阪神淡路大震災で傾き、地元で再建の話が持ちあがりました。覆い屋が解体され、67年ぶりに石室の全容をみることができました。

奈良県立橿原考古学研究所の今津節生氏（現：九州国立博物館）に碧玉製紡錘車などの副葬品と板石に塗られた赤色顔料の分析を依頼したところ、副葬品には水銀朱が、石室には第二酸化鉄が塗布され、使いわけられていました。

石室に積まれた板状の石材は、奥田尚氏の鑑定によると猪名川産。石室の基礎や最下部の排水設備に使われていた子どものこぶし大の石は、近くの讚良川などでよく見られるもので、地元で調達したと思われます。

また平成17年、古墳の規模確認調査のため斜面を調査したところ、埴輪片が少量出土しましたが、蓋石は認められませんでした。



平成14年12月、地元の熱意で無事完成しました。格子戸をのぞくと石室の蓋石が並んでいるのが見えます。左側が忍陵神社。

## 讃良郡条里遺跡 集落：海拔2.7m

古墳時代前期：四條畷市砂



古墳時代前期集落跡 遺跡は、河内湖近くの低湿地で微高地を住居地にしていました。柱穴などが多く見られますが、報告書作成中のため建物の規模などは研究中です。

前期古墳の忍岡古墳は存在するものの、これまで古墳築造に関わる人々が生活した集落は見つかっていませんでした。市内全域からも前期の集落の発見はなく、土器もひとかけらも発見されていませんでした。ムラは何処にあるのか長年の疑問であり謎でした。

ところが、近年大発見がありました。平成23年、大型商業施設建設に伴い、讃良郡条里遺跡を発掘調査しました。その調査地の一角で古墳時代前期の集落跡が発見されたのです。忍岡古墳へは遺跡から東に約1kmと近い位置にあります。この集落が忍岡古墳の被葬者の影響下で古墳築造に関わった可能性もあり、四條畷の歴史を解明する手掛かりとなる重要な発見となりました。

集落は東西にのびる土地の高まり（微高地）を住居地にしていました。竪穴住居は何度か建て替えられたと考えられます。土坑、井戸なども見つかり、土器が数多く出土しています。

古代は、生駒山系から幾筋もの川が西に流れ出し、河内潟（湖）へ注いでいました。讃良郡条里遺跡は河内湖近くで低湿地地帯でしたが、水田・水運・漁業などで価値ある地域だったのでしょう。人々は繰り返し祭祀をおこない水と戦って暮らしていました。



井戸　深さ 69.7 cm　底から見つかった土器と木片



集落跡から出土した主な土器　●印が土坑から出土した壺。高さ 16.7 cm  
●印が上の写真の井戸から出土

\*讃良郡条里遺跡の調査前は水田が広がる地域で、奈良時代の条里制の雰囲気を今に残していることで、遺跡名の由来となっています。この調査で、前述の古墳時代前期の集落をはじめ、奈良時代の小型海獣葡萄鏡・平安時代の皇朝十二銘を使った祭祀跡・大将軍社跡から室町時代の鏡など新発見がありました。また、遺跡のすぐ南にある下水処理施設「なわて水みらいセンター」建設に伴い調査された郡屋北遺跡は、古墳時代の馬骨一体分が出土し、渡来系の人々が馬と関わって生活していた馬飼い集落としてよく知られています。センターには、遺跡の説明板や馬骨一体分の出土状況のレプリカが設置されています。(24頁参照)

### 墓ノ堂古墳 前方後円墳：全長62m

古墳時代中期：四條畷市中野一丁目



昭和17年に撮影された前方後円墳

当館から200mほど北に中野共同墓地があります。平成7年の一部調査で周溝から円筒埴輪が見つかり、中期末の前方後円墳であることがわかりました。昭和17年の航空写真には前方後円墳の姿がはっきりと写されています。現在は古墳全体が共同墓地ですが、盛り上がり部分もあり古墳の面影を残しています。

### 馬の頭を埋葬

### 更良岡山古墳群1号墳 円墳：直径約30m：海拔21m

古墳時代後期：四條畷市岡山四丁目

昭和55年、譲良川の左岸側の高台において、住宅建設に伴う発掘調査を実施した結果、古墳時代後期の円墳2基が見つかりました。どちらも墳丘部はすでに削平され失われていました。

**馬の埋葬** 1号墳の周溝から、円筒埴輪や土器類が出土しています。周溝のすぐそばの土壌から馬歯が出土し、馬が埋葬されていたことがわかりました。

2号墳の周溝内からは蓋形埴輪、円筒埴輪とともに土器類が出土しています。



1号墳 ↓印の土壌に馬が埋葬されていました。  
土壌は馬一体分の大きさがありません。頭部だけの埋葬の可能性があります。

## 清滝古墳群2号墳 円墳：直径約23.5m：海拔38m

古墳時代後期：四條畷市中野一丁目



清滝古墳群2号墳 ○印が馬を埋葬した土壙（穴）。左が生駒山系。

清滝古墳群は、生駒山地の西麓にあります。昭和53～54年に一級河川清滝川分水路改修工事に伴って発掘調査を行いました。調査地は、白鳳時代創建「正法寺」の小字名が残る寺域の東端で、寺の造営によって多くの古墳が破壊されており、明確なものは2号墳だけでした。

2号墳は、前述のように正法寺の造営によって墳丘部が削平されており、墳丘部は高さ35cmしか残存せず、被葬者を埋葬した主体部は見つかりませんでした。

**馬の周溝内埋葬** 下の表に記載しているように、この2号墳の周溝内から多くの遺物が出土しました。西側周溝内に掘られた土壙から馬の歯が出土しました。土壙の大きさや歯の出土の様子から見て一頭分の頭骨にあたります。土壙は、周溝底より20cm埋んでおり、周溝に土壙を掘り込んで馬の頭部を埋納したと考えられます。この馬は、被葬者かその関係者に関わる馬だったのかもしれません。

2号墳周溝内からの出土品	
東側周溝内	器台、装飾壺
南側周溝内	はそう・环簾・滑石製紡錘車
西側周溝内	馬頭埋葬・环簾・短頸壺・碧玉製切子玉・円筒埴輪
北側周溝内	壺・長頸壺・甕・高环・鉄製刀子

## 国中神社・中野正法寺

古墳時代後期：四條畷市清滝中町・中野本町

10世紀の清滝古墳群2号墳の調査地は、正法寺跡の寺域の東端でしたが、同じく寺域の北東隅の小字「双子塚」から古墳時代後期の家形石棺が出土したと伝わっています。しかし、調査しても古墳ではなく、石棺もありませんでした。

市内に現存する家形石棺のうち①は、式内社国中神社の参道入口に棺蓋が直立して設置されています。縄かけ突起がないことから7世紀中頃のものと思われます。文字などは書かれていません。

②—（棺身）白鳳時代の正法寺の法灯を継ぐ小野山正法寺。（通称中野正法寺。以後の文中これを使用）阿弥陀如来石造の前の石槽は、小形の削抜式家形石棺の棺身です。

③—1（棺蓋）中野正法寺の境内には数基の石棺が転用されています。家形石棺の蓋を利用した「南無阿弥陀佛」と大書した六字名号碑（天文五天＝1536）があります。この板碑の上部に方形の突起があり、背面の下部から斜めに上がる平坦面が残っています。これらの特徴から7世紀前半頃の削抜式家形石棺の蓋と思われます。

③—2棺身小口 かねてから六字名号碑の棺身は何処にあるのか謎でした。今回詳細に調査したところ、六字名号碑の台座とその前に備えられている石は、六字名号碑と同石とわかりました。その寸法から後述する石橋に使用している棺身の小口部を使用しています。



① 式内社国中神社に立てられた石棺の蓋  
棺身は発見されていません。

石材は、流紋岩質火山疊凝灰岩 兵庫県高砂市伊保山村近産。



② 正法寺境内に置かれた石棺の身  
この石棺の蓋は発見されていません。石材は流紋岩質火山疊凝灰岩で兵庫県加古川市の平荘湖付近の石と推定されました。



③—1 正法寺境内、右の六字名号碑は  
石棺の蓋。

③—3 棺身底部 石橋を調査したところ、橋面敷石は棺身の底部分と判定しました。

③—4 棺身側部 橋の両端の耳石は棺身の側部。六字名号碑・台座・前の石・石橋は、石材の岩相・寸法・加工面と剖面の検討から③—1・2・3・4は同一の削抜式家形石棺だとわかりました。

\*石材は、流紋岩質火山礫凝灰岩 高砂市伊保山村近産

「六字名号碑」に転用されたのは石棺蓋です。所在のわからなかった身の所在が判明し、新しい発見となりました。また四條畷の歴史の謎の一つが解けました。

\*今回の調査での石棺・石材鑑定は、考古石材の研究会（代表の奥田尚氏）・歴史民俗資料館館長・なわて拓本の会とともに平成25年6～9月に行いました。



中野正法寺のゆるやかな太鼓状石橋（石棺の身）正面に正法寺の石柱が見えます。その左が山門。



石棺蓋



石棺



石棺身

棺身小口

棺身底

棺身側部

棺身小口

削抜式家形石棺の模式図

石棺身展開

中野正法寺に設置された「六字名号碑」の削抜式家形石棺（古墳時代後期）

	転用されている名称	使用している部位	現状の寸法 高さ：幅：厚さ
③—1	六字名号碑	棺蓋の上部	167P : 88P : 26P
③—2	六字名号碑の基礎石と前石	棺身の小口部	85P : 54P : 22P
③—3	橋面敷石	棺身の底部	169P : 88P : 18P
③—4	耳石	棺身の側部	112P : 16P : 26P

**大上古墳群1号墳 円墳：直径約19.4m：海拔33m**

古墳時代後期：四條畷市清滝

大上古墳群は生駒山系の西麓にあります。平成4年、携帯電話無線鉄塔と通信基地局建設に伴い発掘調査を行い、1号墳（円墳の東半分）が見つかりました。墳丘部はすでに破壊され、埋葬施設は見つかりませんでした。墳丘裾部に蓋石が見つかりました。

幅4mの周溝から、須恵器环身・环蓋が3個セット・須恵器はそう・長脚高环・甕・土師器長嗣甕・甕・壺・手捏ね土器・鉄製刀子・馬具（ベルトのバックル）などが出土しました。また、周溝内に埋葬施設が2ヶ所発見されました。



大上古墳群1号墳



周溝内埋葬1号主体部の人骨 被葬者が装着していた、金のイヤリングや土玉が散乱。

**東側周溝内埋葬1号主体部** 石で囲った長さ2.75m、幅1.2m、深さ60cmの主体部から、人一体分の頭蓋骨、肩甲骨、上腕骨、大腿骨、膝蓋骨、歯が出土しました。また、金製のイヤリング一対、土玉230点、鉄製刀子2本、鉄鏃6本、土師器壺、須恵器环蓋が副葬されていました。

**周溝内埋葬2号主体部** 東側周溝内1号主体部の北側約10mの位置に2号主体部長さ1.4m、幅70cmが見つかりました。埋葬施設は人頭大の花崗岩を用いて囲んでいました。その内から人の歯、碧玉製管玉1点、ガラス製小玉19点・土玉30点、馬の歯などが見つかりました。

道路拡幅のため調査面積が狭いのが残念



大上古墳群2号墳

**大上古墳群2号墳**

古墳時代後期：四條畷市清滝

大上古墳群は、中世以降の水田によって多くの古墳が破壊されています。この古墳は、調査面積が古墳のごく一部のみで全容は不明ですが、周溝の一部が見つかり円筒埴輪がたくさん出土しました。

## 大上古墳群3号墳 帆立貝式前方後円墳：全長約45m：海拔46m 古墳時代後期：四條畷市清滝・南野六丁目



帆立貝式前方後円墳 大上古墳群は、生駒山系西麓にあって眼下に馬の牧や河内湖を望むことができました。

国道163号（清滝生駒道路）拡幅工事に伴う発掘調査は、昭和52年度から数次にわたって発掘を行いました。

平成14年の高架道路建設に伴う調査では、帆立貝式の前方後円墳を発見しました。古墳の墳丘部はすでに削平されていましたが、斜面の葺き石部分が残り、葺き石の積み方や石のサイズ別の使い分けなど大型古墳と同じ構造が見られました。

また、古墳の周溝に添うように溝がもう1本見つかり、それぞれ円筒埴輪も立てられていました。このようなことから、二重の周溝が取り巻く可能性も考えられる特異な例です



帆立貝式前方後円墳 平面図



葺石と周溝に転落した埴輪類

\*陶質土器1片が15°の土器と接合できました。塗装時期差があるにもかかわらず同個体の土器が見つかるのは非常に珍しいことです。

**大上古墳群4号墳 前方後円墳**

全長約40m：海拔43m

古墳時代中期：四條畷市清滝

平成11年、清滝中町1号線建設に伴う発掘調査で、古墳の周溝（幅5m）を発見しました。墳丘部や主体部は削平されていましたが、周溝のくびれ部が見つかり、前方後円墳であることがわかりました。

周溝内から、陶質土器が出土し、復元するとほぼ完形となりました。ところが、平成14年に調査した帆立貝式の前方後円墳から1片の陶質土器が出土しました。両古墳は築造の時期差もあるにもかかわらず出土した陶質土器は同一個体でした。

古墳群は渡来系の馬飼い集団の古墳です。両古墳の被葬者の関係を窺うことができます。（帆立貝式前方後円墳は100m南東にあります。143参照）



周溝から出土した陶質土器



復元した陶質土器 左が143の古墳出土の破片です（接合部はすでに石膏詰め）。

**金メッキのイヤリング****大上古墳群5号墳 円墳：横穴式石室**

海拔43m：古墳時代後期：四條畷市清滝

平成11年度、清滝中町1号線建設に伴う発掘調査で、両袖式横穴式石室が四條畷市で初めて発見されました。奥壁及び左片袖部分は、基底部の1段、右側壁は1石だけ残っていました。

石室内の周囲床面には排水施設が備わり、石室内を保護していました。棺床から木棺に使われたと思われる釘が数本出土しています。

石室内から古墳時代後期の須恵器と金銅装耳環が出土しました。古墳時代に金メッキの技術の高さには驚きです。石室から鎌倉時代の中国製白磁、瓦器碗、土師質小皿・焼木などが出土し、この時期に盗掘にあっていたことがわかりました。



大上古墳群横穴式石室 鎌倉時代に盗掘にあい、人が石室に住みついていきました。



上：金銅装耳輪（金メッキ）

左下：緑色凝灰岩管玉 右下：ガラス小玉

## 国道163号の調査

古墳時代中期～後期 集落

城遺跡 四條畷市清滝・南野六丁目

木間池北方遺跡 四條畷市中野二丁目

中野・清滝



高架道路の調査風景

国道163号を高架にするための整備に伴い、昭和63年～平成16年まで発掘調査しました。

木間池北方遺跡と城遺跡は、生駒山系を東西に貫く国道163号（清滝街道）が走っています。大上古墳群は両遺跡の範疇にあります。遺跡は、山系の裾野に広がり、大阪平野を望むことができ、古代にも河内湖や牧を一望に見下ろせました。

調査の結果、国道163号に沿うように川が流れていきました。川辺で祭祀跡があちらこちらで発見されましたが、そのほとんどが朝鮮半島の陶質土器や韓式系土器が使われていました。また、円筒埴輪なども見つかり、古墳群であったことを示しています。

\*国道163号の調査では、各所で馬を埋葬した古墳や陶質土器を使った祭祀跡がみられ、波来系の馬飼い集団が河内湖を見下ろす特別な場所でくりかえし祭祀をおこなっていたことがわかりました。



須恵器器台



陶質土器



円筒埴輪



緑色凝灰岩(碧玉)管玉・滑石製臼玉

## 忍ヶ丘駅前1号墳 一辺約30mの方墳 海抜19m

古墳時代中期：四條畠市岡山二丁目



琴を弾く男性埴輪 復元高さ26.3cm。  
琴は、5本の弦を放射状に線刻した板作。

平成3年、JR忍ヶ丘駅の西側で銀行建設に伴う発掘調査を行ったところ古墳が見つかりました。幅約5mの周溝内から円筒埴輪・人物埴輪・蓋形埴輪と共に須恵器壺身・壺蓋・高壺・壺、土師器高壺・壺・椀等が出土しました。

出土した人物埴輪の破片は、椅子や琴、目・鼻・口の顔部。足先には革製のような履物を履いていました。

弾琴埴輪は、全国で30例以上が知られていました。そのほとんどが関東地方に集中し、近畿地方では3例目の出土となり貴重な資料となっています。

### 日本最古級の下駄



切妻造家形埴輪



日本最古級のヒノキの下駄

## 岡山南遺跡 集落：海拔29m

古墳時代中期：四條畠市岡山

昭和50年、府道枚方・富田林・泉佐野線バイパス道路予定地の発掘調査を行いました。その結果、古墳時代中期の大溝、竪穴住居跡、掘立柱建物跡が見つかりました。

大溝の規模は、延長約35m、幅2~2.5m、深さ1~1.2mのU字状です。溝の上面から古墳時代後期の大壺が出土し、溝内の最下層から円筒埴輪・切妻造家形埴輪・朝顔形埴輪・動物埴輪や土師器壺・壺、ミニチュア土器、須恵器壺・壺身・壺蓋、日本最古級の左足用のヒノキ材の下駄（長さ24.2cm、幅9.5cm）が出土しました。

## 忍ヶ丘駅前遺跡 集落：海拔21.6m

古墳時代中期：四條畷市岡山一丁目

**人物埴輪** 昭和58年当時の国鉄片町線忍ヶ丘駅の西側横で発掘調査を進めていた際、古墳時代中期の人物埴輪の頭部や馬の歯が出土しました。

高さ17.4cm、頭部の直径11.5cmで端正な顔立ちをしています。4枚はぎのキャップをかぶっています。

**水鳥形埴輪** 忍ヶ丘駅のすぐ南東位置の調査区で大溝を見ました。長さ約1.4m、幅約1m、深さ約50cmの土坑内から、水鳥形埴輪が横倒しの状態で出土しました。埴輪は首から上の部分と尾羽根の一部が欠損していたものの胸部は完全な状態で出土しました。埴輪の残存の高さは約54cmです。

**子馬形埴輪** 昭和63年にJR忍ヶ丘駅の西側広場建設に伴う発掘調査で、ほぼ完全な形でオスの子馬の埴輪が横たわった状態で出土しました。まるで今埋めたかのようなみすみすしさと愛らしさで調査員一同感動の一瞬でした。

丸みをおびた顔の表情、足先の表現、すんぐりとした胸、可愛らしい表情が随所にみられ、見ていて楽しい埴輪です。

馬形埴輪には鞍を表現していますが、この埴輪には鞍もたてがみも見られません。判断の重要な手掛かりの尻尾が欠損しており判定は困難でしたが、発見時は子犬形埴輪として紹介していました。

しかし、奈良県天理市の荒荷古墳から鞍をもたない裸馬が見つかったことから、足先はひづめの表現ではないかと様々な考察を重ねた結果、オスの子馬形埴輪と断定しました。



人物埴輪 キャップの後ろをリボンで結んでいます。復元高さ26.3cm。



水鳥形埴輪



子馬形埴輪 あどけない表情

## 南山下（みなみさげ）遺跡 集落：海拔22m

古墳時代中期：四條畷市岡山東一丁目



出土した馬形埴輪 須恵器壺の口の部分が一緒に出土したこと年代が決定しました。

忍ヶ丘駅の南側に所在する遺跡です。昭和51年より片町線複線化工事に伴って発掘調査がおこなわれました。

昭和61年、忍ヶ丘駅前区画整備事業に伴う発掘調査では、古墳時代中期の長さ約25m、溝幅3.5m、深さ40cmの大溝内から馬形埴輪が発見されました。土圧で破損した状態でしたが、ほとんどの部位が揃っていました。その埴輪のそばから須恵器壺の口の部分が出土し、今から約1500年前の埴輪と年代を決定することができました。復元すると高さ54cm、全長約86cm、蹄も表現されています。

この埴輪に装着されているクツワ・鞍・アブミ等の馬具とうり二つの実物が藤屋北遺跡で出土しています。（24頁参照）

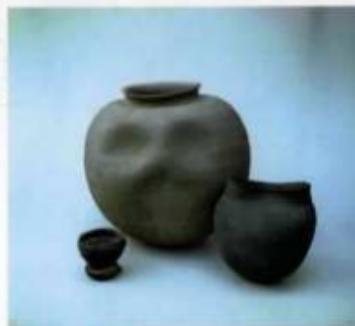
また、馬形埴輪の他に、大量の土器類と円筒埴輪・朝顔形埴輪・蓋形埴輪などが出士しています。埴輪には二本線でかかれた舟のようなものや記号が描かれているものもありました。これらの出土した埴輪は、古墳以外の祭祀に伴うものと考えています。



やさしい表情の馬形埴輪 クツワ・たづな・鞍・アブミ・泥除けなどの馬具が忠実につくられています。

## 陶質土器と韓式系土器

陶質土器は朝鮮半島で作られて舶載されたものです。韓式系土器は、朝鮮半島の土器をまねて、日本で作られた土器です。これらの土器が出土すれば、渡来系の人々の存在が考えられます。



陶質土器

中央：四條畷小学校内遺跡

左：中野遺跡 右：奈良井遺跡



後列の2点は、陶質土器。右が大上4号墳(15世紀)。

左が南野米崎遺跡(22世紀)。

前列の5点は韓式系土器。中野遺跡・南野米崎遺跡・

奈良井遺跡から出土しました。ワッフルのような格子目が特徴です。

## 渡来人が伝えた最新のキッチン用具



蒸し器 3点セット

移動力マド・壺・底に穴があるこしき



煮炊のための移動力マド 郡屋北遺跡 24世紀参照



カマドの焚口 郡屋北遺跡 20世紀参照



ミニチュア器台 城遺跡 16世紀参照

中野遺跡 集落：海拔22.7m

古墳時代中期：四條畷市中野



大溝から見つかった焼け木と馬の下顎骨



ウルシ入りカップ

**大溝** 昭和52年、大阪瓦斯天然ガス埋設工事に伴って発掘調査を実施しました（中野新町）。幅約3.8m、底幅約1.2m、深さ約1.4mの南北に流れる大溝が見つかりました。溝の右岸側から、焼け木の上に馬の下顎骨が横位の状態で見つかりました。馬は火を用いる祭祀に使用されたものです。年齢は5歳位で性別は不明です。

また、多量の製塩土器、土師器甕、朱塗りの壺・須恵器坏身・坏蓋・器台、ウルシ入りカップ・滑石製紡錘車・有孔円板・滑石製臼玉・木製劍等が出土しています。

**井戸** 昭和62年、国道163号拡幅工事に伴って発掘調査しました（中野三丁目）。古墳時代後期の井戸内から馬の頭蓋骨が出土しました。井戸は直径1.3m、深さ1.2mの3段掘りの素掘りです。馬は、井戸の中位堆積土層内から板材の上に置かれた状態で出土しました。左下の歯の上に花崗岩の石が置かれ、その上部には完形の土師器甕2点と壺1点と高坏脚部がお供えされました。この馬は井戸の廃止にともなう犠牲馬で、3~4歳の若い馬です。

**樽形はそう** 平成3年、中野本町のマンション建設に伴って調査したところ立派な樽形はそうが出土しました。

**子持ち勾玉** 平成6年、国道163号の拡幅調査で滑石製の子持ち勾玉が出土しました。



井戸の廃止に使われた犠牲馬



樽形はそう



子持ち勾玉

## 南野米崎遺跡 集落：海拔10.6m

古墳時代中期：四條畷市米崎町



馬を掘る

昭和59年に住宅建設に伴う発掘調査で、古墳時代中期の大溝が東西方向に見つかりました。大溝の長さは調査区全域の40mおよび、最大幅5.5m・深さ1.7mです。この大溝内からは、馬の歯・滑石製臼玉・製塩土器・陶質土器・韓式系土器、初期須恵器の壺・甕・無蓋高环、土師器高环・甕・壺・手捏ね土器、滑石製勾玉・有孔円板・剣形石製品・加工木製品が出土しました。出土した土器の大半は完形品です。

馬の歯は、大溝の左岸肩部に左下顎と右下顎が土圧で重なり合った状態で出土しました。臼歯の長さから5~6歳の馬と推定できました。この馬のそばから出土した滑石製臼玉（ビーズ）は、29個が一列に並んで出土しました。臼玉は紐に、通していたのでしょうか。呪力があるとされるモモの種子も多量に出土しています。

古代では、水は悪いものや穢れたものを流すとされており、祭祀は川や溝などの水辺で頻繁に行われました。当市の遺跡では祭祀に馬を使う例が多く見られます。



左：掘り出された馬の歯



右：こしき（蒸し器）底に穴があいているのが特徴（参考20枚）

### 北口遺跡 集落：海拔11.3m

古墳時代中期：四條畷市岡山二丁目

平成11年、マンション建設に伴う発掘調査をしました。そこで集落が見つかり立派な樽形はそうが出土しました。ワインの樽のような優美な形をしています。胴の部分に穴があいています。このような穴あき土器は単なる飲み水を入れる容器ではありません。穴の位置までしか液体を入れることはできません。穴に竹筒のようなものを差し込んで酒や清水を注いだのでしょうか。



樽形はそう

平成24年の調査では、家の柱穴や須恵器が出土しました。また、緑色凝灰岩（碧玉）の原石が出土しています。管玉などの装飾品をつくる玉作り工房があったのでしょうか。

### 井戸の神さまにお供え

### 奈良田遺跡 集落：海拔11.8m 古墳時代中期：四條畷市岡山一丁目

昭和55年に忍ヶ丘砂線の都市計画道路予定内の発掘調査を実施しました。調査地から掘立柱建物の柱穴約30ヶ所、落ち込み状遺構、土坑、板枠井戸等を発見しました。建物は古墳時代中期のもので、この建物の柱を放棄した際に滑石製勾玉を入れていました。

この掘立柱建物跡の北側から落ち込み状遺構（長さ10m・幅3m・深さ1m）が見つかり、溝内から古墳時代中期の土師器壺・壺・須恵器壺身・壺蓋などが多量に出土しました。



板枠井戸

建物跡と落ち込み状遺構との間から、方形板枠井戸がほぼ完全な形で見つかりました。直径約1.2m・深さ1mのヒノキ材を使用しています。井戸の底から、お供えされた土師器壺・把手付鉢・須恵器壺・はそう・滑石製臼玉が出土しています。

## 部屋北遺跡 集落：海拔0.4m

古墳時代中期：四條畷市葛屋・砂

平成13年から10年にもわたる部屋北遺跡の発掘調査の結果は、馬飼い集団の集落が発見され、馬の存在をより強く印象づけました。

遺跡から準構造船をリサイクルした井戸が6基も出土しました。遺跡で出土した船材はスギ材が占めていますが、モミ材の船材をリサイクルしたもののが1基ありました。朝鮮半島ではモミ材が一般的に使われており、朝鮮半島と直接交流が窺えます。

この遺跡は河内湖近くにあり、7世紀の讚良郡条里遺跡と隣り合う低湿地地帯です。現在の価値観からすると決して住みやすい環境ではありませんが、朝鮮半島と活発な交流をし、遺跡は近畿の海上交通の玄関口の一つとして重要な機能をはたしたのでしょう。

遺跡からは、馬の一本分の骨格と馬具・製塩土器などの馬に関する出土品をはじめ、陶質土器・韓式系土器など多くの出土品が得られました。

馬は渡来人によって伝えられましたが、馬だけではなく、移動式カマドやU字状をしたカマドの焚口など渡来の文化も伝えられ、先進的な暮らしをしていました。

住居は竪穴住居が大半で、何度も建て替えており柱穴が密集して見つかりました。



おびただしい数の竪穴住居

竪穴住居内から出土した製塩土器  
(大阪府教育委員会提供)丁寧に埋葬された馬 5~6歳の馬  
(大阪府教育委員会提供)

馬具 足をのせるアブミ



馬具 鞍(後ろの背もたれの部分)



馬具 馬の口にかませるクツワ

(大阪府教育委員会調査・所蔵)

\*馬を乗りこなすには、そういう訓練が必要です。それには馬具がなくては困難です。現在の馬具と材質は違うものの、形はそのまま踏襲しています。古代から完成されていることに驚きです。馬のひづめには、当時は打ち込む蹄鉄はまだ装着されていません。

## 奈良井遺跡 祭祀場：海拔22m

古墳時代中期～後期：四條畷市中野三丁目

昭和54年に四條畷市立市民総合センター建設予定地で調査を実施した結果、古墳時代中期から後期にかけての隅丸方形周溝状遺構（一辺想定約40m、最大肩幅約5m、深さ約1～1.5m）が見つかり、溝から祭祀具や多くの出土品が得られました。

**馬** この隅丸方形周溝状遺構の溝から7頭分以上の馬歯を含む馬骨が発見されました。そのうちの一頭は、板の上に丁寧に横位に埋葬していました。残りは良好とはいえませんが、頭蓋骨・下顎骨・大腿骨・脛骨・中足骨・上腕骨など現位置を保っていました。骨の計測から体高120cmの馬であることが分かりました。

また、周溝遺構内の土坑には、首を切り取られた犠牲馬の頭蓋骨がそのままの姿で出土しました。年齢は馬歯の計測からみると14歳以上の高齢馬でした。

**小さな人形と馬形** その他、各種土器、手捏ね土器・人形土製品12体・馬形土製品5個、馬の飼育道具である木製のブラシとムチの柄が出土しました。このようなことから、馬のまつり場と断定しました。

平成12年・平成23年の調査ではこの祭祀場の続きが発見され、土器類・手捏ね土器・製塩土器・木製剣・ガラス小玉・滑石製臼玉・勾玉・紡錘車等が出土しました。



馬のまつり場 市民総合センターの敷地を調査



首をきられて祭祀に使われた犠牲馬



人形・馬形土製品と土器

**まつり場の井戸** 祭祀遺構の西方約60mの所から古墳時代後期初頭の方形板枠井戸を発見しました。この井戸は、馬のまつり場で祭祀の時に使われたと考えています。井戸内から須恵器・土師器と共にウメ・マクワウリ・アズキ・スモモ・ノブドウ・ヤマモモ・ブドウ・ガマズミ・サンショウ・ヒョウタン・サクラ・モモなど多くの種子が出土しました。モモは呪力があるとされていました。

**まつり場のムラ** 平成2年、四條畷市立市民総合センターの北西約100mの場所で倉庫建設に伴って発掘調査を行いました。その結果、古墳時代中期の掘立柱建物跡・土坑・溝状遺構・落ち込み状遺構・大溝が見つかりました。

**溝状遺構**（幅約4m・深さ約60cmと推定）。須恵器はそう・壺、土師器高壺・壺・壺、多くの滑石製紡錘車や有孔円板・臼玉、馬の歯が1頭分出土しました。

**落ち込み状遺構** 掘立柱建物跡の一角で見つかった落ち込み状遺構内から、須恵器とともにこぶし大の滑石の原石が出土しました。奈良井遺跡は馬に関わる祭祀遺跡だけでなく、玉作り生産がおこなわれていたのでしょうか。

**大溝**（幅約8m・深さ約1mと推定）からは、多量の須恵器壺身・壺蓋、壺・高壺や土師器高壺・壺・壺、木製品・モモの種子・韓式系土器・製塩土器などが出土しました。塩は馬の飼育に欠かすことができません。塩の生産を行うための土器が製塩土器です。



方形板枠井戸  
一辺約1.2m、深さ約1m



各遺跡から出土した製塩土器と馬の歯  
製塩土器は片手ほどの大ささです。ごく薄くつくられていて、その破片は、まるでポテトチップスのようです。

鎌田遺跡 祭祀跡：海拔8m

古墳時代中期：四條畷市中野



馬のまつり場　低地に選まれていました。現在の地面よりかなり深く掘り下げられています。



馬の下顎骨

四條畷市立学校給食センターの建設に伴い発掘調査を行い、長さ約5.7m、幅約4m、深さ約1.1mの大溝が見つかりました。

大溝は、一辺14mの方形周溝遺構を取り巻くものと推定しています。

調査地から多量の須恵器と土師器・手捏ね土器・完全な形の製塙土器・滑石製臼玉・ガラス玉、木製飾り台・木製スリザサラ・木製鐵・馬の下顎骨・犬の下顎骨・鹿角製刀子柄・モモなどが出土しました。

馬の下顎骨は、大溝の左岸肩部にほぼ完全な状態で置かれていました。臼歯の計測値から馬の年齢はおよそ5歳です。その他にも2体分以上の各部位の馬骨が出土しています。

当遺跡から25°の奈良井遺跡の馬の祭り場は、東に750mの方向にあります。同じ時期に馬のまつり場が2ヶ所あるのは同じ渡来系馬飼い集団でも低地と中高地の集団のちがいなのでしょうか。

\*この調査地から南西約200mの市民総合体育館からは同じ時期の水田跡が見つかっています(29°)



●はスリザサラ ●は馬の骨



飾り台 高さ70cm  
木製の矢や剣を載せました。

当調査地で出土したものは、祭祀的要素の強いものです。楽器のスリザサラは茶筅のようなものでスリザサラの凹凸部分をこすって音を出します。この楽器は、音楽を楽しむためのものではなく、神を呼ぶために使いました。

また、コウヤマキとヒノキ材を組み合わせた高さ70cmの飾り台は、祭祀の時に木製の矢や刀などの祭具を載せるためのものと考えています。牧場の平和と安全を願い祭祀が行われたのでしょうか。

**鎌田遺跡 水田：海拔3.45m**

古墳時代中期：四條畷市藤屋・中野

平成5年、四條畷市立市民総合体育館の建設に伴って発掘調査を行った結果、調査区の東西約400m・南北約300mの全域にわたって古墳時代中期の水田跡が見つかりました。

この水田は洪水によって砂で埋まっていたため、良い状態で見つかりました。水路が分岐する重要な場所から水口祭記の跡が見つかり、土師器甕5点・椀1点・メノウ製勾玉1点・滑石製臼玉が出土しました。

馬を飼う産業だけではなく、農業にも力を注いだことが伝わってきます。



水田跡 斜めに水路が走る、小区画水田37筆



メノウ製まが玉

**水害にも負けず米づくり****讚良郡条里遺跡 水田：海拔1.2m**

古墳時代中期：四條畷市砂

平成23年、大型商業施設建設に伴い、讃良郡条里遺跡を発掘調査しました。この調査で古墳時代の水田が数ヶ所見つかりました。水田は、低湿地にあるため幾度となく水害にみまわれましたが、砂によってパックされていたため、当時の人の足跡や、水田を耕す農具の跡、稲の根株の跡まで残っていました。

この水田は、堤防が設けられた水路が作ってありました。堤防は洪水により何度も決壊し、そのたびに土を入れなおして堤防を補修していましたことがわかりました。工事に使われた材の中には再利用されたものが多く、建物の扉材も含まれていました。



中央に水路（最大幅5m）と堤防。その左右が水田。1区画の面積約74m²～146m²。○印が木製槽（下の写真）

木製槽（容器）25.6cm×59.3cm  
水路から出土しました

## 森山遺跡 集落：海拔142m 古墳時代中期：四條畷市上田原

平成4年～5年、府道中垣内・南田原線を拡張し、その下に汚水管を設置する工事に伴って発掘調査を行いました。その結果、古墳時代の溝、落ち込み状遺構、柱穴、土坑等の遺構が見つかりました。

落ち込み状遺構内から土師器の壺が完形品で出土しました。また土師器壺・須恵器壺蓋・把手付鍋・滑石製臼玉が出土しました。



府道中垣内・南田原線の調査 右上の森が住吉神社  
田原地域では、古墳時代の遺跡はありませんでした。  
この調査で初めて発見されましたが、その後は発見されていません。

### まとめ

朝鮮半島から玄界灘の荒波に逆らって越えるのは命がけでした。まして馬をつれての船旅はさらに危険がともなったでしょう。渡来人は郡屋北遺跡の湖辺で馬を降ろしました。そこは、多くの人々や馬が行き交う賑やかなムラとなりました。

山裾の城遺跡や奈良井遺跡や中野遺跡などは、陶質土器や韓式系土器を多量に使ってまつりを繰り返し行いました。讃良（四條畷周辺）の馬飼い集団は国際感覚をもった渡来系の人々が、馬とともに暮らしていました。

讃良に来たのは小さな蒙古系の馬でした。馬の調教は大変難しく手がかかります。草が豊富な放牧地が何ヶ所も必要です。市内全域に古墳時代の遺跡は広がるもの放牧地は調査では発見しにくいといえます。遺構や出土品が得られていない場所こそが、放牧地ではないでしょうか。

讃良で育った馬は王朝に供給され王権を支えました。牧はおよそ150年も繁栄しましたが、奈良時代になると、ぱったりと馬の姿が見られなくなります。馬の重要性が高まり、国の牧が定められ、法律で厳しく管理されるようになりました。

\*日本書紀天武天皇十三年（619）4月の条 およそ政治の要是軍事である。そこで、文官、武官みな、つとめて武器を使いこなし、馬を乗りこなすことを習え。

\*続日本紀文武4年（700）諸国に命じて牧場の地をさだめ、牛馬を放牧させた。





平成25（2013）年10月8日（火）～12月15日（日）